

- 問1 てこのうでをかたむける力の大きさを表すもので、「おもりの数（力の大きさ）×支点からのきより（長さ）」の積で表されるものを何といいますか。
- 問2 てこのつり合いのきまりによると、てこがつり合っているとき、「左のおもりの重さ×左のうでの支点からのきより」の値は、右側のどのような計算から求められる値と等しくなりますか。
- 問3 てこを使って重い物を持ち上げるとき、てこを支える位置のことを何といいますか。
- 問4 台ばかりを上から指で押したときに、針が100gを示したとします。このとき、指が加えている「100g」という値は、何の大きさを表したものでですか。
- 問5 てこを利用した道具である「はさみ」を使うとき、指で握って力を加える部分は、てこの何にあたりますか。
- 問6 てこを使って重いものをできるだけ小さな力で楽に持ち上げたいとき、支点と作用点の位置を変えないとすると、力点の位置をどのようにすればよいですか。
- 問7 てこの仕組みを使った道具のうち、力を加える部分（力点）が、支える部分（支点）と仕事をする部分（作用点）の間にある道具を何と呼びますか。
- 問8 1点でささえた棒に力を加えて、重いものを持ち上げることができる仕組みを何といいますか。
- 問9 てこを使って重いものを小さな力で持ち上げるとき、力点と支点の間隔はどのようにすればよいですか。
- 問10 はさみで紙を切るとき、2つの刃が交わっていて、はさみ全体を支える位置にあたる部分を何といいますか。
- 問11 空きかんつぶし器は、てこの仕組みを利用した道具です。この道具において、支点と力点の間にある部分はどこですか。
- 問12 てこの仕組みを使って重いものを持ち上げるとき、力を加えるものはどれですか。
- 問13 てこがつり合うとき、左側のおもりの重さと支点からのきよりをかけた値と、右側のおもりの重さと支点からのきよりをかけた値が等しくなるというきまりを何といいますか。
- 問14 理科の実験などで、手で押したり引いたりする「力」を目に見える形で表したいとき、どのようなものにおきかえて表すことができますか。
- 問15 てこを使って、ものに力がはたらく位置のことを何といいますか。
- 問16 力点と支点の位置を変えないとき、重いものをより小さな力で楽に持ち上げるためには、作用点をどのように動かせばよいですか。